

クラウドファイルサーバー エクスポートツール

【利用者機能】

第 1.1 版

2023/08/21

富士通株式会社

＜変更履歴＞

版数	発行日	変更内容
初版	2023/03/01	—
1.1	2023/08/21	新バージョン v1.1 公開 ・ZIP でエクスポート機能を追加 ・ログの保存場所を変更 ・エクスポート終了後にエラーがあった場合、件数を表示 ・差分/更新チェック終了後にエラーがあった場合、件数を表示 ・処理時間の表示を「エクスポート処理時間」と「チェック処理時間」を表示

目次

1.	はじめに.....	3
2.	本書の目的	3
3.	本書の位置づけ	3
4.	留意事項	4
5.	動作環境	8
6.	ツールのダウンロード.....	9
7.	設定ファイル（任意）	10
8.	起動・ログイン	12
9.	エクスポートするドロアやフォルダを[出力先]に登録.....	13
10.	エクスポート.....	16
11.	ファイルのチェック（推奨）	19

本書は、2023年8月21日時点の情報をもとに作成したものです。改良のため予告なく変更することがあります。

本書の無断複製および転載を禁じます。

本書に記載されている会社名・製品名・システム名・サービス名などは、各社の登録商標、もしくは商標です。

1. はじめに

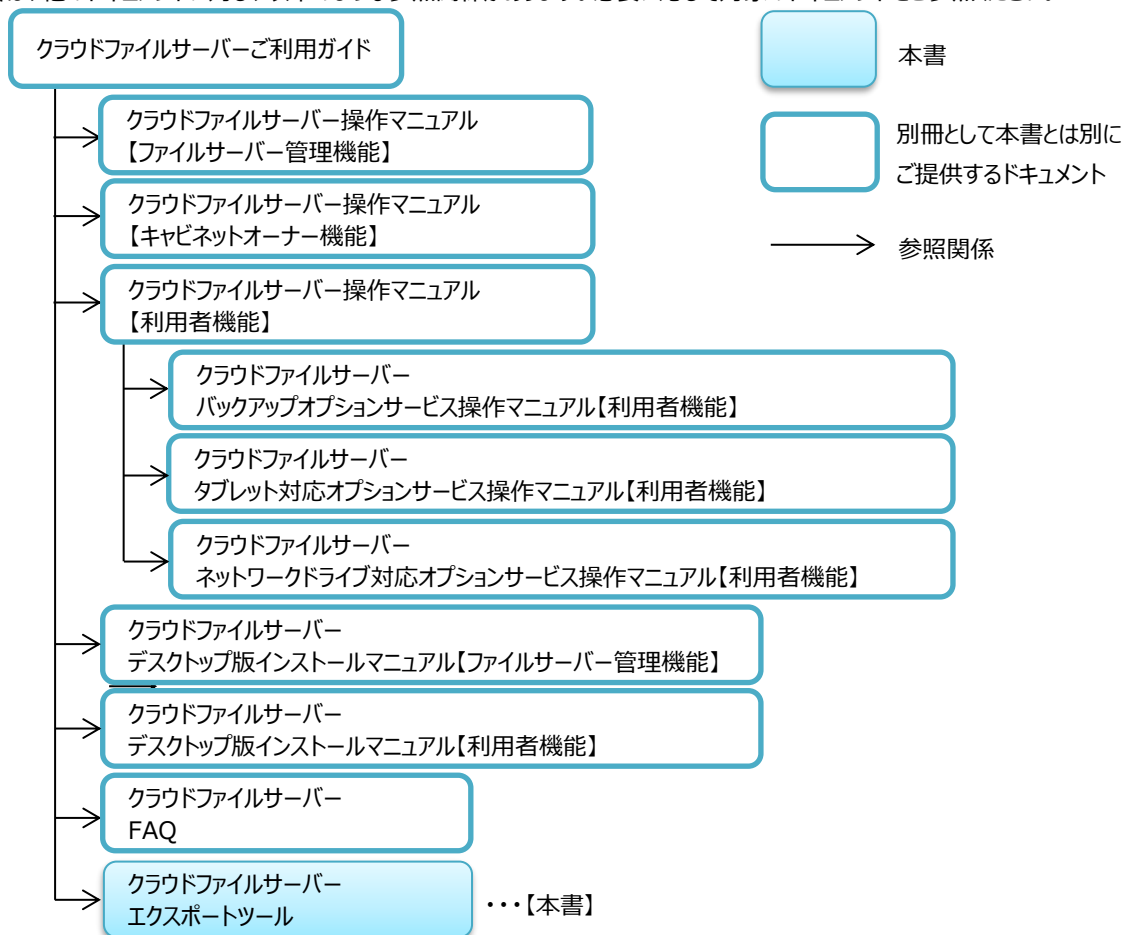
FUJITSU Cloud Service クラウドファイルサーバー（以下、当ファイルサーバー）に保管されているデータを、お客様環境への退避を簡略化することを目的としたエクスポートツール（以下、本ツール）をご提供いたします。

2. 本書の目的

本ツールのご利用方法についてご説明いたします。なお、本書は別冊提供の「[クラウドファイルサーバーご利用ガイド](#)」をご覧ください。前提としています。

3. 本書の位置づけ

本書は、他のドキュメントに対し、以下のような参照関係があります。必要に応じて対象のドキュメントをご参照ください。



4. 留意事項

本章では、本ツールをご利用に当たっての留意事項についてご説明します。

(1) アカウント

本ツールのご利用にはファイルサーバーのアカウント（ユーザーID/パスワード）が必要となり、エクスポートする場所のアクセス権限が付与されている範囲内でご利用が可能です。

※[操作マニュアル【キャビネットオーナー機能】](#)

9.8. ドロアやサブドロアにユーザーのアクセス権限を設定する

(2) エクスポート先の PC 環境

エクスポートする対象データの合計容量以上に、空き容量が十分に確保されていることをご確認ください。ファイルサーバー上のデータをエクスポートする際に復号化を行うため、一時的に対象データの 2 倍の容量が必要となるためです。

(3) エクスポート時の 1 ファイルあたりの最大のファイルサイズ

各ユーザーID の[動作環境設定]にある[ダウンロード時ブロックサイズ]が“4.0MB”(初期値) の場合、エクスポート時の 1 ファイルあたりの最大のファイルサイズは「200GB」です。ただし動作環境設定により異なる場合がございます。詳細は以下マニュアルをご覧ください。

なお、エクスポート先の PC に空き容量が確保されている限り、1 度にエクスポート可能な総容量の制限はありません。

※[操作マニュアル【利用者機能】](#)

28. 動作環境の設定を行う

※[FAQ](#)

Q4. クラウドファイルサーバーからダウンロードできる最大のファイルサイズは？

(4) 処理速度

動作につきましては、お客様環境とサーバー間のネットワークの通信状況など（Windows Update 等で回線が混んでいる等）に影響されます。また、エクスポート時は復号化の処理をお客様 PC 側で行うため、お客様 PC の性能（ストレージの速度やプロセッサの処理速度）に依存いたします。

本ツールはエクスポート時間の短縮を目的として、エクスポート処理を並行して複数同時に行うよう設定しております。そのため「ブラウザアプリケーション」「デスクトップアプリケーション」に比べ PC への負荷が高くなる場合がございますのでご注意ください。

(5) 階層の深さ（パスの長さ）

エクスポート先のパスが Windows のパス制限（ファイル名を含めたフルパスで 260 文字未満）を超えた場合、対象フォルダ、ファイルはスキップされ、ログに記録されます。スキップされたファイルは別の場所にエクスポートする等の対応をお願いします。

ログの場所は **10 エクスポート** に記載しております。

(6) 移行先サービスへの直接エクスポート

本ツールは当ファイルサーバーからお客様のローカル環境へのデータ退避を簡略化することを目的としております。移行先となる他のサービスに直接エクスポートされる行為の動作保証はできかねます。当ファイルサーバーからエクスポートする際、お客様 PC 上で復号化処理を行うため、他のサービスを經由された場合、PC やネットワークの負荷がより高くなり処理時間に影響を及ぼす可能性もございます。

(7) 特殊文字

キャビネット名、ドロー名、フォルダ名、ファイル名に次の文字が含まれていると、場合により正常にエクスポートできない恐れがございます。特殊な文字はなるべく使用されませんようご注意ください。

<発生する恐れがある事象>

- エクスポートツールの“出力先”に登録できず、エラー「ネットワーク回線の異常を検知しました」が表示されたり、アプリケーションが突然終了したりする恐れ
- エクスポート後に一部のファイルが存在しない
- エクスポート後にファイルが異なる階層に移動している
- エクスポート後の名称が文字化けする

<“出力先”への登録不可となる恐れがある文字>

禁止文字	読み方
¥	エンマーク
/	スラッシュ
:	コロロン
*	アスタリスク
?	クエスチオンマーク
“	ダブルクォーテーション
<	小なり
>	大なり
	バーティカルバー

<エクスポートされなかったり文字化けしたりする恐れがある文字>

禁止文字	読み方
¥	エンマーク ※異なる階層に移動する恐れ
%	パーセント ※エクスポートできない恐れ
_	アンダースコア ※ドローア名に使用の場合不具合起きる恐れ
␣	半角スペース ※ドローア名の先頭や末尾に使用の場合不具合起きる恐れ
.	ピリオド ※フォルダ名の最初と最後に使用の場合不具合起きる恐れ
#	シャープ ※ファイルが開けない、編集できない恐れ
環境依存文字	環境依存文字（絵文字） 例) (株) ☺ など

- (8) エクスポート先のフォルダ削除後に[差分・更新チェック]実施した場合フォルダ復活
エクスポート後に、エクスポートしたフォルダを削除された後、[差分・更新チェック]を実施することで、エクスポート先で削除したフォルダが復活します。チェックのため空のフォルダが復活しますが仕様となりますことをご了承ください。

- (9) エクスポートツールフォルダ内の各ファイル
エクスポートツールフォルダ内の「*.dll」や「*.xml」など、すべてのファイルは動作に必要なため削除されな
いでください。削除されたり名前を変更したり移動したりされますと動作しなくなる場合がございます。正常
に動作しなくなった場合は、お手数ですが改めて ZIP ファイルをダウンロード・展開してご利用ください。

<エクスポートツールのすべてのファイル>

名前	種類	名前	種類
Csv	ファイル フォルダ	FileExportTool.exe	アプリケーション
de	ファイル フォルダ	FileExportTool.exe.config	Configuration ソー...
es	ファイル フォルダ	FileExportTool.pdb	PDB ファイル
fr	ファイル フォルダ	FileExportTool.vshost.exe	アプリケーション
it	ファイル フォルダ	FileExportTool.vshost.exe.co...	Configuration ソー...
ja	ファイル フォルダ	FileExportTool.vshost.exe.m...	MANIFEST ファイル
ja-JP	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.Edm.dll	アプリケーション拡張
ko	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.Edm.xml	XML ドキュメント
ru	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.OData.dll	アプリケーション拡張
xml	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.OData.xml	XML ドキュメント
zh-Hans	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.Services.Clie...	アプリケーション拡張
zh-Hant	ファイル フォルダ	Microsoft.Data.Services.Clie...	XML ドキュメント
CfsCommon.dll	アプリケーション拡張	Microsoft.WindowsAzure.St...	アプリケーション拡張
CfsCommon.dll.config	Configuration ソー...	Microsoft.WindowsAzure.St...	XML ドキュメント
CfsCommon.pdb	PDB ファイル	Newtonsoft.Json.dll	アプリケーション拡張
CfsUserEntity.dll	アプリケーション拡張	Newtonsoft.Json.xml	XML ドキュメント
CfsUserEntity.pdb	PDB ファイル	Otp.NET.dll	アプリケーション拡張
CfsWpfCommon.dll	アプリケーション拡張	QRCoder.dll	アプリケーション拡張
CfsWpfCommon.pdb	PDB ファイル	System.Spatial.dll	アプリケーション拡張
DotNetZip.dll	アプリケーション拡張	System.Spatial.xml	XML ドキュメント
DotNetZip.pdb	PDB ファイル		
DotNetZip.xml	XML ドキュメント		
FileExportTool.exe	アプリケーション		

(10) 免責事項

本ツールの使用または使用できなかったことにより、何らかの障害や金銭的なものも含めた損失が発生したとしても、その原因が本ツールの不具合や意図された動作によるものであるか否かを問わず、弊社は一切責任を負いません。使用者の自己責任においてご利用下さい。

必要なデータがすべてエクスポートされたかにつきましてはお客様にてご確認ください。

5. 動作環境

本章では、本ツールを利用に当たって、クライアントパソコン（以下、パソコン）の動作環境について説明します。

パソコンの動作環境は、次のとおりです。

OS	Microsoft Windows10 Pro/Enterprise【32bit/64bit】（日本語/英語）
	Microsoft Windows11 Pro【32bit/64bit】（日本語/英語）
ソフトウェア	Microsoft .NET Framework4.5 以上
メモリ	1GB 以上
画面解像度	1024×768 以上
ハードディスク	アップロード、ダウンロード時にファイルの暗号化、復号をパソコンで行います。一度にアップロード、ダウンロードする全ファイル容量以上の空き容量が必要となります。
CPU	OS およびブラウザの動作環境を満たせば、特に制限はありません。
ネットワーク	<p>設定完了通知書に記載の接続先情報(URL)へ接続する必要があります。</p> <p>※お客様環境にて、パソコンからの接続先を Firewall 等で制限している場合は、Firewall 等の管理者に設定完了通知書に記載の接続先情報(URL)への接続許可を設定してもらう必要があります。</p> <p>※Web アプリケーションの場合、お客様環境にて、インターネットへアクセスする際にプロキシ認証を使用されている場合は、プロキシ等の管理者に、設定完了通知書に記載の接続先情報(URL)へのプロキシ認証を解除してもらう必要があります。</p> <p>※設定完了通知書は、本サービスご利用の窓口担当者の方に送付しています。</p>
シンクライアント	サポート対象外です。

6. ツールのダウンロード

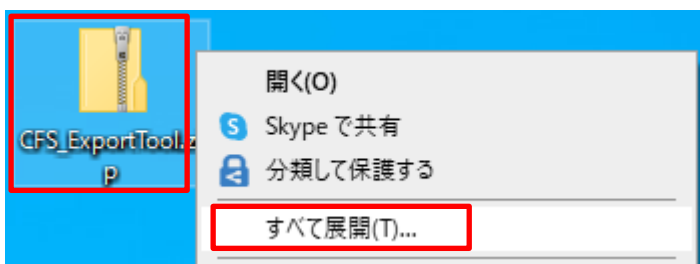
(1) ダウンロード

以下 URL より ZIP ファイルを、お客様 PC 上にダウンロードします。

ダウンロード URL	https://fsdoc.blob.core.windows.net/CFS_ExportTool.zip
------------	---

(2) 展開 (解凍)

ZIP ファイルを右クリックし、[すべて展開]を選択します。



[参照]ボタンより任意の場所を選択し、[展開]ボタンを選択します。

← 圧縮 (ZIP 形式) フォルダの展開

展開先の選択とファイルの展開

ファイルを下のフォルダに展開する(E):

C:\Users\%USER%\Desktop\CFS_ExportTool

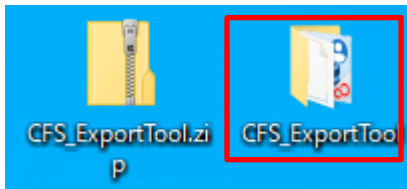
参照(R)...

完了時に展開されたファイルを表示する(H)

展開(E)

キャンセル

展開後のフォルダを使用します。元の ZIP ファイルは削除していただいて問題ございません。



7. 設定ファイル（任意）

本ツールの動作を設定ファイルで変更することが可能です。下記 config ファイルを Windows の「メモ帳」といったテキストエディタで開き、編集・保存することでご利用できます。

設定ファイル名	FileExportTool.exe.config															
場所	展開後のフォルダ直下 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>種類</th> <th>サイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CfsWpfCommon.pdb</td> <td>PDB ファイル</td> <td>48 KB</td> </tr> <tr> <td>FileExportTool.exe</td> <td>アプリケーション</td> <td>1,340 KB</td> </tr> <tr> <td>FileExportTool.exe.config</td> <td>Configuration ソースファイル</td> <td>12 KB</td> </tr> <tr> <td>FileExportTool.pdb</td> <td>PDB ファイル</td> <td>1,464 KB</td> </tr> </tbody> </table>	名前	種類	サイズ	CfsWpfCommon.pdb	PDB ファイル	48 KB	FileExportTool.exe	アプリケーション	1,340 KB	FileExportTool.exe.config	Configuration ソースファイル	12 KB	FileExportTool.pdb	PDB ファイル	1,464 KB
名前	種類	サイズ														
CfsWpfCommon.pdb	PDB ファイル	48 KB														
FileExportTool.exe	アプリケーション	1,340 KB														
FileExportTool.exe.config	Configuration ソースファイル	12 KB														
FileExportTool.pdb	PDB ファイル	1,464 KB														
変更可能項目	(1) エクスポート先の同名ファイルの上書き可否 (2) エクスポート処理の同時実行スレッド数															

(1) エクスポート先の同名ファイルの上書き可否

ファイルサーバー上のファイルは暗号化されており、エクスポート時に復号化しているため、本ツール上ではエクスポート時にファイルの更新有無が判断できません。必要に応じご変更ください。

設定値	説明
True	上書きする（低速）
False	上書きせずスキップする（高速）[既定値]

212 行～214 行（旧バージョン：220 行～222 行）

```
<setting name="ExportOverwrite" serializeAs="String">
  <value>False</value>
</setting>
```

(2) エクスポート処理の同時実行スレッド数

1 つのエクスポート処理で内部的に同時実行するスレッドの数を設定可能です。端末の性能に余裕がある場合にスレッド数を多くすることで処理時間を短縮できる可能性があります。端末の CPU 負荷が高い場合は「15 未満」に設定することで負荷を下げるすることができます。

設定値	説明
整数	同時実行スレッド数 15[既定値]

218 行～220 行（旧バージョン：226 行～228 行）

```
<setting name="ExportMaxThreadCount" serializeAs="String">
  <value>15</value>
</setting>
```

(3) エクスポート処理ファイル情報の出力 [新バージョンのみ]

エクスポート処理ファイル情報をログに出力する/しないを設定することが可能です。既定では出力しない設定です。出力される場合、ファイル数分のログが出力されるため、ログのファイルサイズが増大する恐れがある点をご留意の上ご利用ください。

設定値	説明
False	出力しない [既定値]
True	エクスポート処理ファイル情報を出力する

229 行～231 行

```
<setting name="DebugLogging" serializeAs="String">  
  <value>False</value>  
</setting>
```

8. 起動・ログイン

(1) 起動

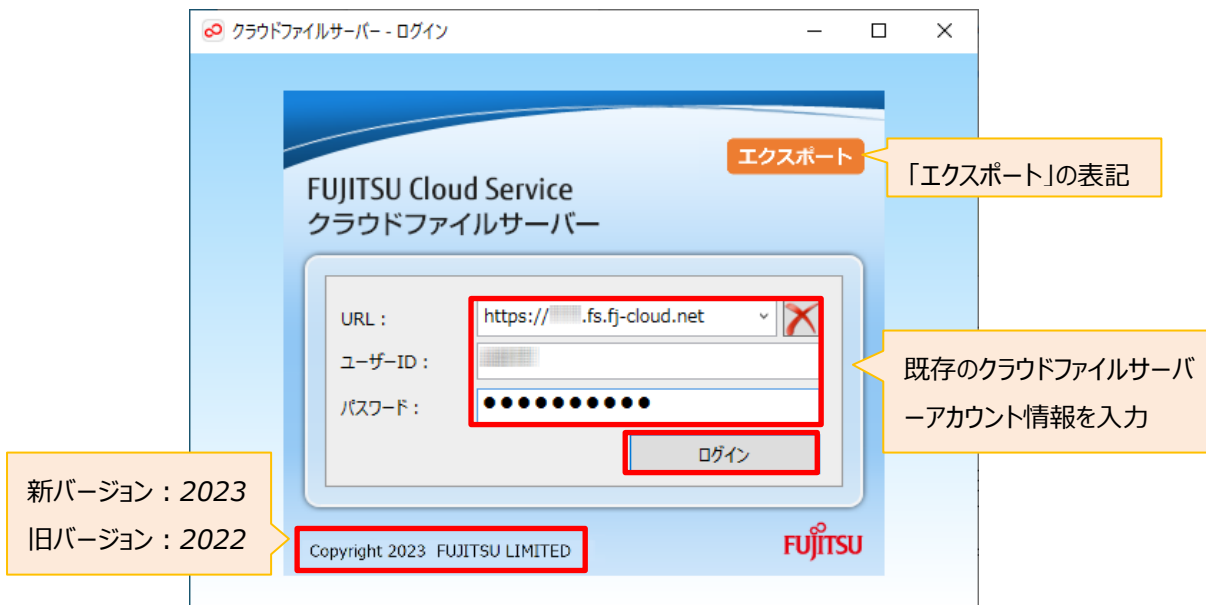
展開後のフォルダ内にある「FileExportTool.exe」ファイルをダブルクリックし実行します。

名前	種類	サイズ
CfsWpfCommon.pdb	PDB ファイル	48 KB
FileExportTool.exe	アプリケーション	1,340 KB
FileExportTool.exe.config	Configuration ソー...	12 KB

(2) ログイン

ご契約 URL、普段ご利用のアカウント情報を入力し、[ログイン]ボタンを選択します。

URL	当サービスの URL を入力します。以下「 * * * 」はお客様により異なります。 https:// * * * .fs.fj-cloud.net/
ユーザーID	当サービスご利用者様のユーザーID を入力します。
パスワード	当サービスご利用者様のパスワードを入力します。



<ログインできない場合>

「認証に失敗しました」や「ユーザーID はロックされています」でログインできない場合、お客様の【管理機能】よりパスワード初期化やロック解除が可能です。お客様の管理者様にてリセットをお願いします。

・[操作マニュアル【管理機能】](#)

9.4. ユーザー情報を変更する

9. エクスポートするドローヤフォルダを[出力先]に登録

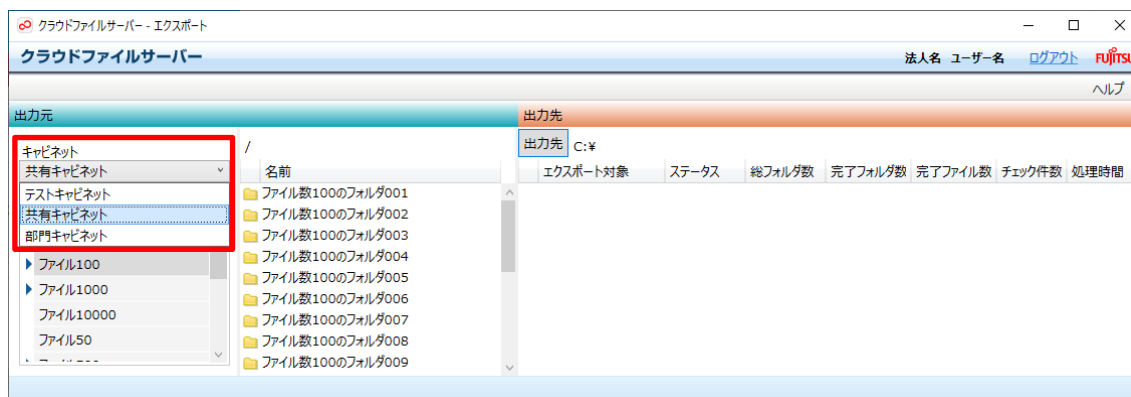
エクスポートされたいドローヤ・フォルダを「出力元」の場所から選択し、「出力先」に登録します。

<留意事項>

- ▶ 「出力先」の選択候補ではファイルは表示されません。（ドローヤ直下のファイルをエクスポートされたい場合は[ドローヤ]自体を「出力先」に登録が必要です。
- ▶ ドローヤ自体を指定した場合、サブドローヤはエクスポート対象に含まれません。サブドローヤをエクスポートする場合は、対象のサブドローヤをそれぞれ「出力先」に登録してください。
- ▶ エクスポート先ではドローヤ、フォルダの区別なく出力されます。同名となる場合はご注意ください。

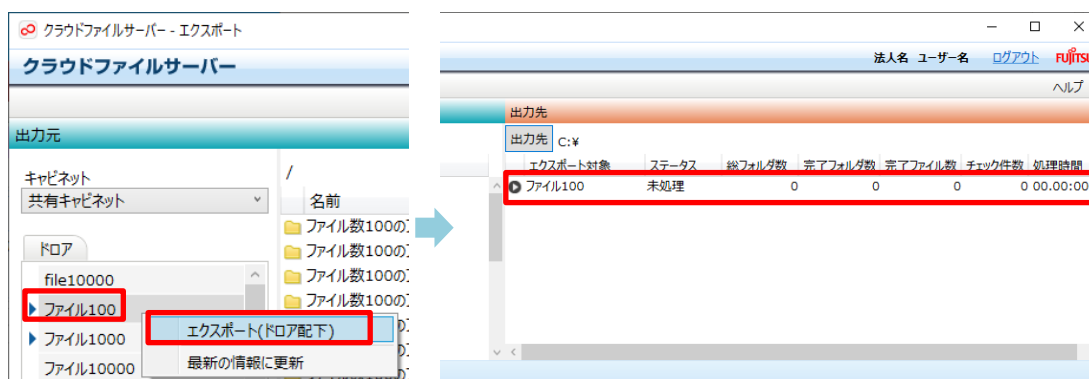
(1) 出力元の選択

対象の「キャビネット」を選択します。



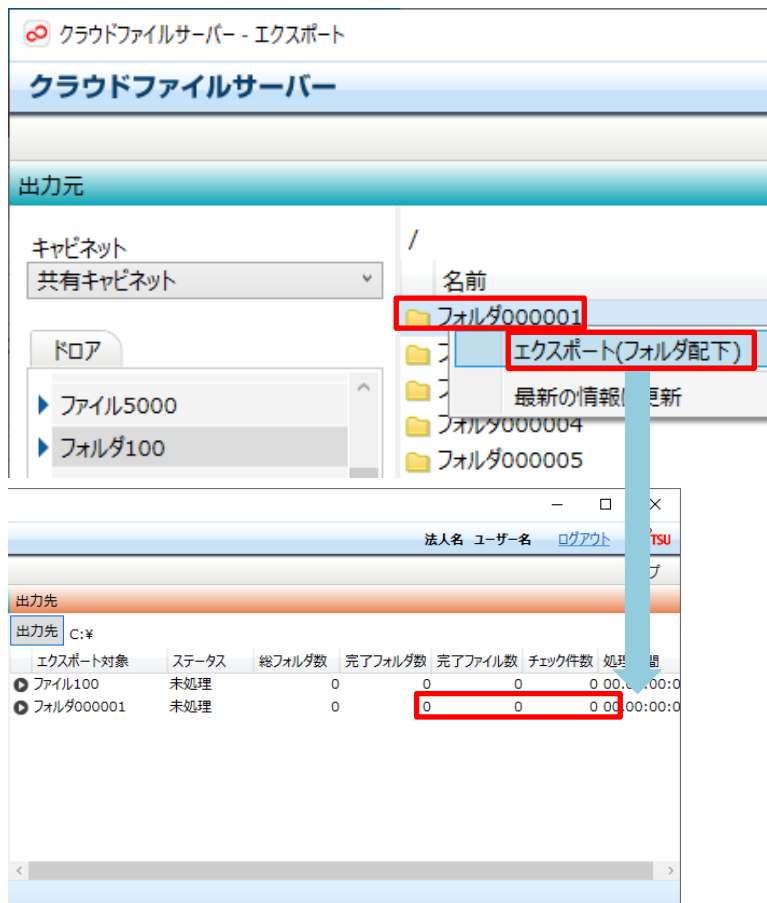
(2) ドローヤ単位で[出力先]に登録する場合

対象の「ドローヤ」上で右クリックし、[エクスポート（ドローヤ配下）]を選択することで、右側の[出力先]に対象のドローヤが登録されます。



(3) フォルダ単位で[出力先]に登録する場合

対象の「フォルダ」上で右クリックし、[エクスポート（フォルダ配下）]を選択することで、右側の「出力先」に対象のフォルダが登録されます。



<複数のフォルダを選択する場合>

離れたフォルダを複数選択する場合	連続してフォルダを複数選択する場合
<p>[Ctrl]キーを押しながらフォルダを選択</p>	<p>開始のフォルダを選択後、[Shift]キーを押しながら最後のフォルダを選択</p>

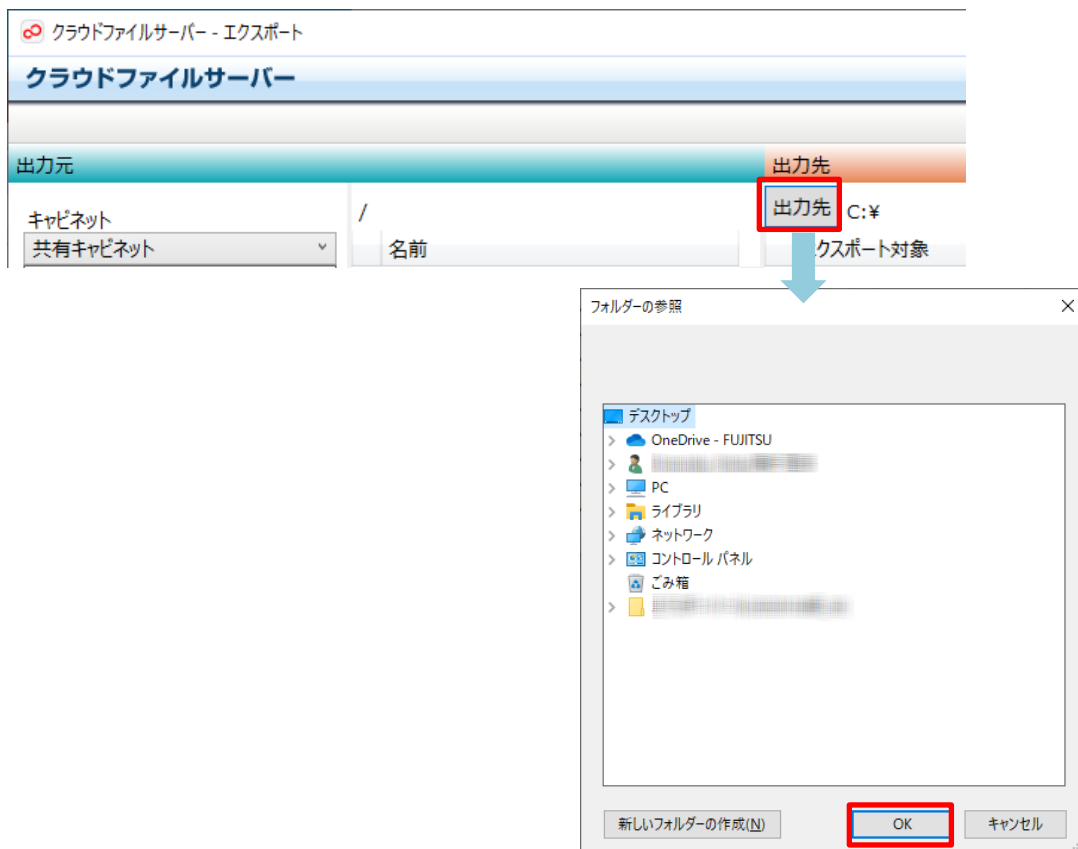
※すべてのフォルダを対象な場合は、前述のドロア右クリックの[エクスポート（ドロア配下）]が可能です。

(4) [出力先]の設定

[出力先]のボタンを押下しエクスポート先を指定することで、エクスポートのパスを指定できます。

<出力先について>

- 出力先の親パスは任意で指定可能です。(既定値は「C:/FileExport」)
- エクスポート先のパスは、指定したフォルダからのパスとなります。
例) 「キャビネット名/ドロー名/フォルダ AAA/フォルダ BBB」の「フォルダ BBB」を指定した場合のエクスポート先パスは、「C:/FileExport/フォルダ BBB」となります。
- 「出力先」が適用されるタイミング
新バージョン：エクスポートを“開始”した時点
旧バージョン：エクスポートの“対象に追加”した時点
※エクスポート単位で「出力先」は保持されます。



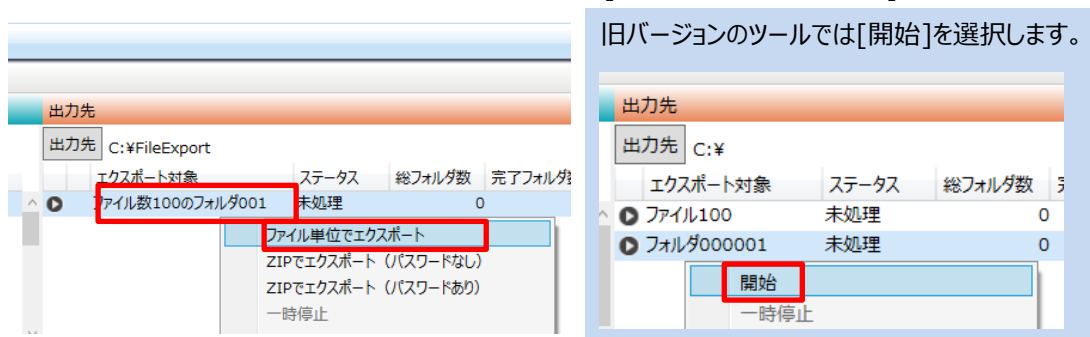
10. エクスポート

ファイルサーバー上のデータをローカル PC 上にエクスポート（ダウンロード）します。エクスポートには圧縮の有無、圧縮する場合はパスワードを付与するかを選べます。

メニュー	圧縮	パスワード	データ形式
ファイル単位でエクスポート	なし	なし	そのまま
ZIP でエクスポート（パスワードなし）	あり	なし	ZIP フォルダ
ZIP でエクスポート（パスワードあり）	あり	あり	ZIP フォルダ

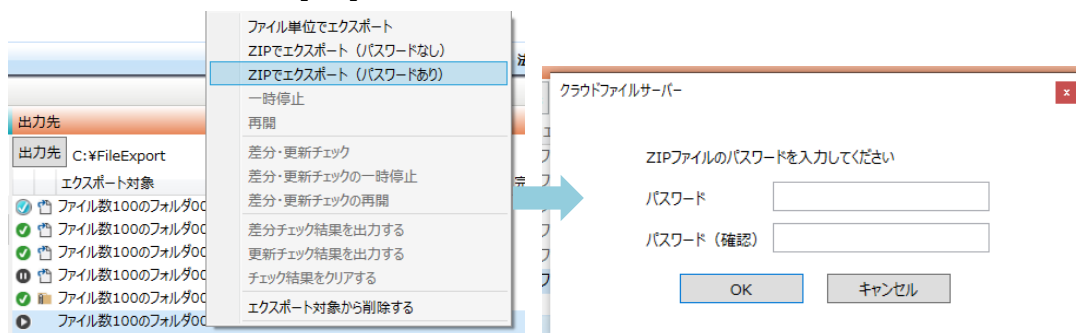
(1) 開始

「出力先」に登録されているエクスポート対象を右クリックし[ファイル単位でエクスポート]を選択します。



<ZIP でエクスポート（パスワードあり）の場合>

[ZIP でエクスポート（パスワードあり）]を選択後、（エクスポートされた ZIP フォルダを展開するための）任意のパスワードを入力し、[OK]を選択します。



※[ファイル単位でエクスポート]や[ZIP でエクスポート（パスワードなし）]の場合、パスワード入力画面は表示せず、選択後すぐにエクスポートが開始されます。

<ZIP でエクスポート選択時の注意点>

[ZIP でエクスポート（パスワードなし）]、[ZIP でエクスポート（パスワードあり）]では、大量のメモリが必要です。エクスポートされる ZIP ファイルと同等か容量以上のメモリが必要となります。メモリが不足していた場合、途中でエクスポートは中止されます。

処理が開始されるとステータスが[実行中]となります。

出力先				
出力先 C:¥				
エクスポート対象	ステータス	総フォルダ数	完了フォルダ	
ファイル100	未処理	0		
フォルダ000001	実行中	0		

処理が完了するとステータスが[終了]となります。

出力先							
出力先 C:¥FileExport							
エクスポート対象	ステータス	総フォルダ数	完了フォルダ数	完了ファイル数	チェック件数	処理時間	
ファイル数100のフォルダ001	終了	9	9	118	0	0.00:00:13	

<留意事項>

➤ パスの制限

エクスポート先のパスが Windows のパス制限（ファイル名を含めたフルパスで 260 文字未満）を超えた場合、対象フォルダ、ファイルはスキップされます。スキップされた場合は処理終了後、スキップ件数を記したダイアログ（画面）が表示され、[ステータス]には“終了（エラー ?件）”とエラー件数が表示されます。スキップ対象のファイル、フォルダについてはログファイルで確認できます。

出力先									
出力先 C:¥FileExport2									
エクスポート対象	ステータス	総フォルダ数	完了フォルダ数	完了ファイル数	チェック件数	エクスポート処理	チェック処理時間		
ファイル100 (1階層のみ)	チェック済 (エラー 3件)	0	0	98	96	0.00:00:38	0.00:00:18		
ファイル100	チェック済	200	200	2460	2460	0.00:10:06	0.00:04:29		
ファイル1000	終了	0	0	1000	0	0.00:12:55	0.00:00:00		
特殊文字	チェック済	0	0	12	12	0.00:00:00	0.00:00:01		
ドローアながぐる	終了	0	0	12	0	0.00:00:00	0.00:00:00		
ハカカ	終了 (エラー 2件)	0	0	11	0	0.00:00:08	0.00:00:00		

➤ ログの場所

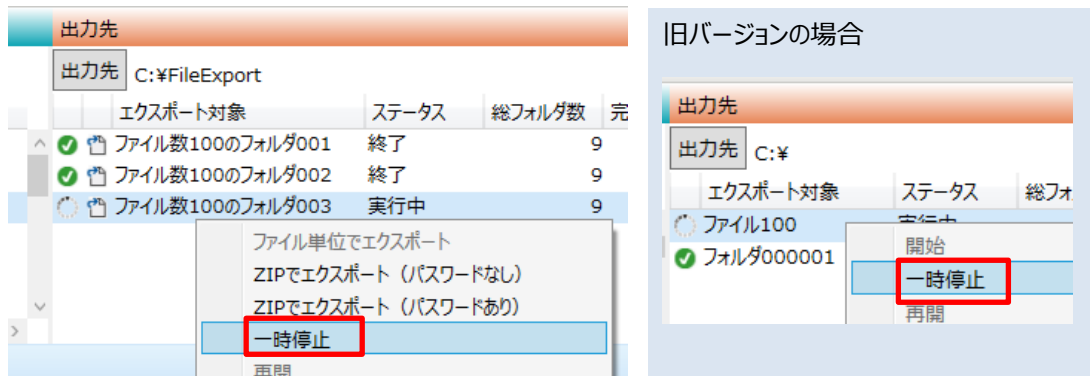
旧バージョン	%USERPROFILE%¥AppData¥Local¥Temp¥cloudfileserverexport.log
新バージョン	{ツールの展開場所}¥Log¥cloudfileserverexport.log

➤ [処理時間]は「日数.時間:分:秒」の書式で表示されます。

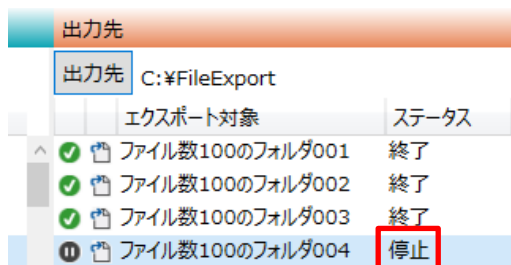
例) 1.01:30:15 (←25 時間 30 分 15 秒の場合)

(2) 一時停止と再開

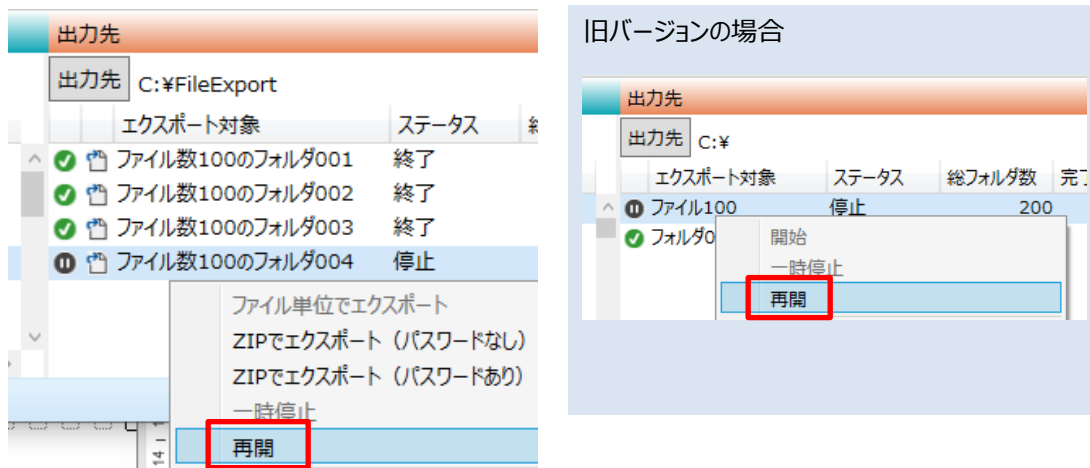
処理中に停止したい場合は対象を右クリックし[一時停止]を選択します。



ステータスが[停止]に変わります。



停止の処理を再開したい場合は、対象を右クリックし[再開]を選択します。



11. ファイルのチェック（推奨）

エクスポートが終了した処理では以下の点でファイルサーバー上のファイルとの比較をチェックすることが可能です。チェックは任意であり、必須ではありません。正常にエクスポートされたことを確認するために、チェックを実施していただくことを推奨いたします。

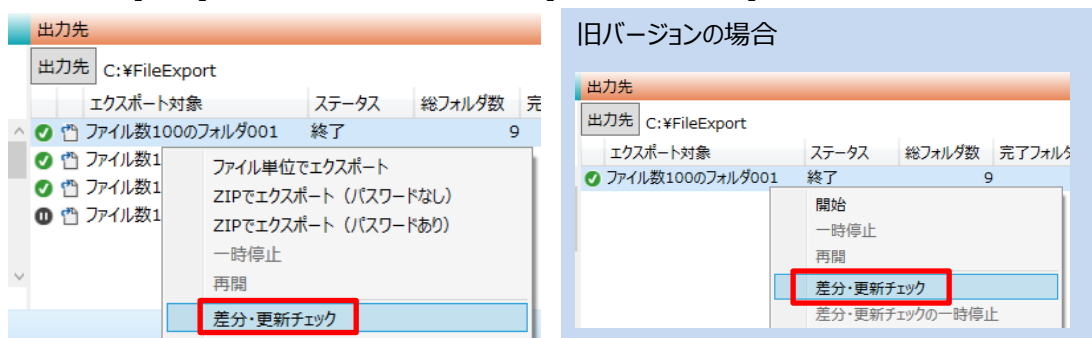
差分チェック	エクスポート漏れの確認のため、ファイル数の差がないかのチェック
更新チェック	エクスポートしたファイルが最新であるかのチェック

<留意事項>

- チェック処理には、エクスポート処理と同じくらいの時間がかかることにご留意ください。
- チェック処理はその時点のものです。変更が生じた際はその都度チェックが必要となります。
- チェック処理はあくまで結果の表示のみで、差分/更新の分が補填されるものではありません。
- 動作環境等により正しくエクスポートされない場合があります。

(1) 差分・更新チェックの実施

ステータスが[終了]となっている処理上で右クリックし[差分・更新チェック]を選択します。



チェックが始まります。

出力先	エクスポート対象	ステータス	総フォルダ数	完了フォルダ数	完了ファイル数	チェック件数	処理時間
C:\¥FileExport	ファイル数100のフォルダ001	チェック中	9	9	118	28	0.00:00:01

チェックが終了するとステータスが[チェック済]に変わります。

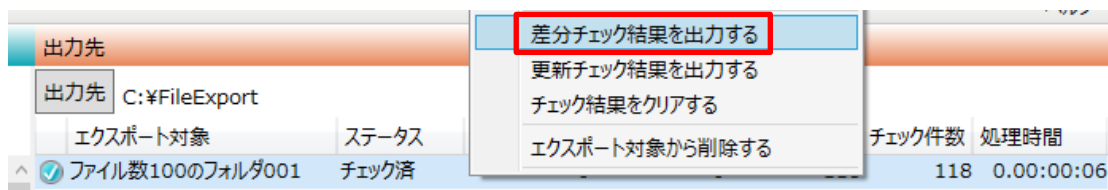
出力先	エクスポート対象	ステータス	総フォルダ数	完了フォルダ数	完了ファイル数	チェック件数	処理時間
C:\¥FileExport	ファイル数100のフォルダ001	チェック済	9	9	118	118	0.00:00:06

※チェック結果の確認は以下の「（２）差分チェック結果の出力」、「（３）更新チェック結果の出力」を実施後、生成された CSV ファイルよりご確認できます。

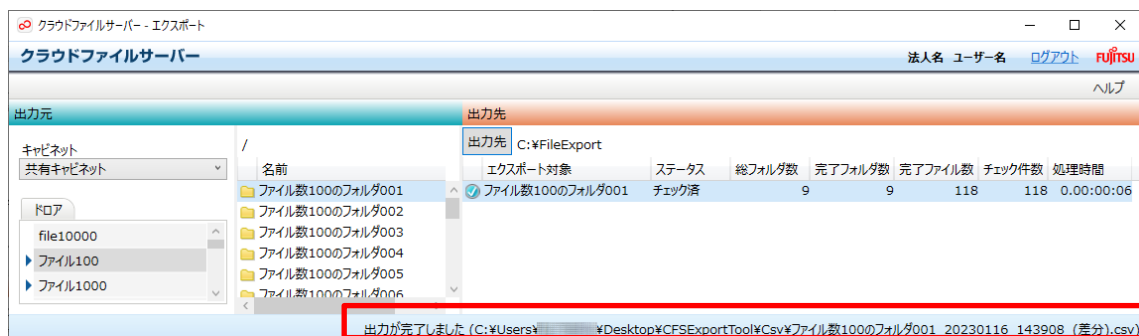
（２） 差分チェック結果の出力

チェック終了後、各チェックの結果を出力できるようになります。

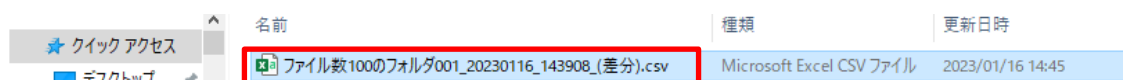
ステータスが[チェック済]上で右クリックし[差分チェック結果を出力する]を選択します。



結果が出力されるとステータスバーに保存場所が表示されます。



ツール内の「Csv」フォルダの csv ファイルを開きます。



<差分ファイルの概要>

	A	B	C	D
1	パス	結果	エクスポートしたファイル数	チェック対象ファイル数
8	ファイル数100のフォルダ001¥2階層目¥3階層目¥4階層目	OK	2	2
9	ファイル数100のフォルダ001¥2階層目¥3階層目	OK	2	2
10	ファイル数100のフォルダ001¥2階層目	OK	2	2
11	ファイル数100のフォルダ001	OK	100	100

No	項目名	説明
1	パス	対象のドロア、フォルダまでのキャビネットからのパス
2	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・差分あり ※ ・差分なし

3	エクスポート対象ファイル数	エクスポート対象ファイル数
4	エクスポートしたファイル数	エクスポートしたファイル数
5	チェック対象ファイル数	チェック時点のファイル数
6	チェック時に存在したファイル数	チェック時に存在したファイル数

<旧バージョンの場合>

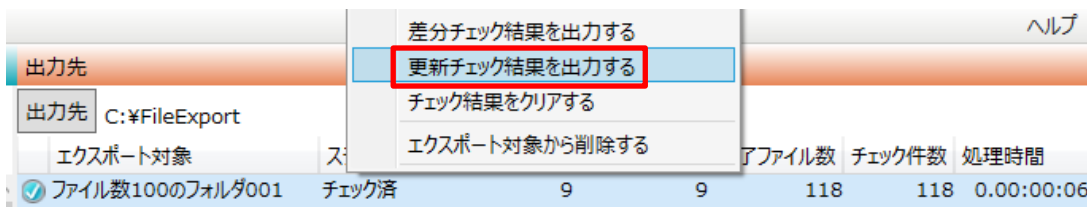
No	項目名	説明
1	パス	対象のドロア、フォルダまでのキャビネットからのパス。
2	結果	・差分あり：NG ※ ・差分なし：OK
3	エクスポートしたファイル数	エクスポートしたファイル数。
4	チェック対象ファイル数	チェック時点のファイル数。

※[変更あり]や[差分あり]がある場合、お客様にてご確認後、必要に応じて退避していただくようお願いいたします。

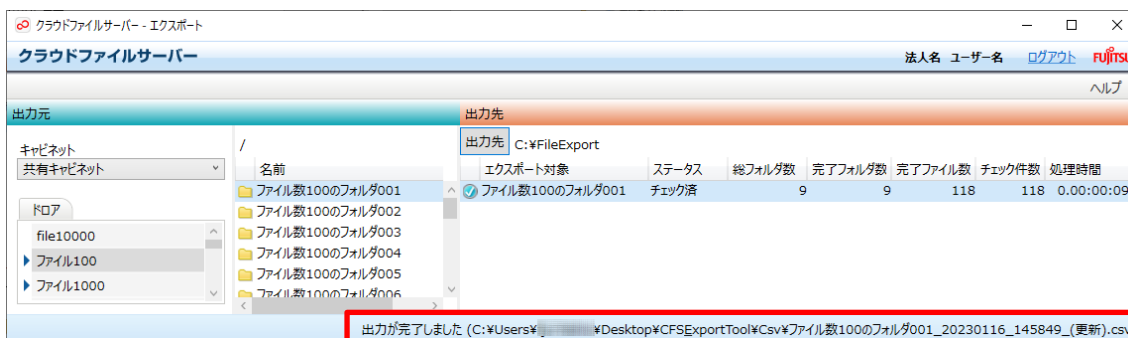
「差分チェック」はファイル数のみのチェックとなるため、対象データが不明の場合は「更新チェック」にてご確認ください。

(3) 更新チェック結果の出力

ステータスが[チェック済]上で右クリックし[更新チェック結果を出力する]を選択します。



結果が出力されるとステータスバーに保存場所が表示されます。



ツール内の「Csv」フォルダの csv ファイルを開きます。

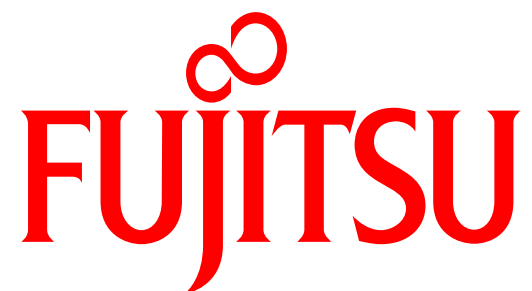
名前	種類	更新日時
 ファイル数100のフォルダ001_20230116_143908_(更新).csv	Microsoft Excel CSV ファイル	2023/01/16 14:56
 ファイル数100のフォルダ001_20230116_143908_(差分).csv	Microsoft Excel CSV ファイル	2023/01/16 14:45
 ファイル数100のフォルダ001_20230116_145849_(更新).csv	Microsoft Excel CSV ファイル	2023/01/16 14:58

上で右クリックし「更新チェック結果を出力する」を選択します。

<更新ファイルの概要>

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	パス	ファイル名	結果	更新内容	エクスポート	チェック対象	エクスポートしたファイルの更新日時	チェック対象ファイルの更新日時
9	ファイル数00_最初にご覧OK		変更なし		14144	14144	2021/11/18 18:33	2021/11/18 18:33
10	ファイル数00_最初にご覧OK		変更なし		14144	14144	2021/11/18 18:33	2021/11/18 18:33
11	ファイル数01_操作画面別NG		更新		19024	19056	2021/11/18 18:33	2023/1/16 14:58
12	ファイル数01_操作画面別OK		変更なし		19024	19024	2021/11/18 18:33	2021/11/18 18:33

No	項目名	説明
1	パス	対象のドロア、フォルダまでのキャビネットからのパス。
2	ファイル名	対象のファイル名
3	結果	・差分あり ・差分なし
4	更新内容	・ファイルが更新されていない：変更なし ・ファイルが新規に登録された：新規 ・ファイルが更新された：更新 ・ファイルが削除された：削除
5	エクスポートしたファイルのサイズ	エクスポートしたファイルのファイルサイズ。
6	チェック対象ファイルのサイズ	チェック対象ファイルのファイルサイズ。
7	エクスポートしたファイルの更新日時	エクスポートしたファイルの更新日時。
8	チェック対象ファイルの更新日時	チェック対象ファイルの更新日時。



shaping tomorrow with you